

## 10月自然観察会・報告 生駒山滝寺周辺

辻本 信一

9月10日に予定されていた「秋の自然観察会」は残念ながら雨で流れましたので、今回はその時予定していた生駒山麓、滝寺周辺での自然観察会を、再度チャレンジし、実施いたしました。

講師には「大阪自然史博物館友の会」副会長の田代貢先生をお招きし、10月15日(月)の実施となりました。

当日は、会員の皆さまお疲れの「ならやま」でのイベント開催翌日ということもあり、参加者はあまり多く見込めないのではと危惧しておりましたが、フタを開ければなんと16名の方にご参加いただき盛況な滑り出しとなりました。



【近鉄生駒駅改札出口集合】

久しぶりの外部講師による自然観察会ということも背景にあつてのことだと思いますが、皆さま、熱心にノートを取り、終始真剣な眼差しで話に集中してくださいました。

その熱意は、先生にも伝わり、「目につくものは何でも手当たり次第」の勢いで説明が次々と繰り出されます。田代先生の案内の特徴は、植物の構造や仕組みを自前の手書き資料を使って、誰にでも分かりやすく、丁寧に教えていただけること。

複葉・単葉の説明では、軸に対する葉の付き方の違いを、模型を使って、しっかり説明してくださいました。

観察の対象は植物のみならず、ハチ、アブ、更には



【模型を使つての説明】

アリジゴクの昆虫にまでおよびます。

午前10時にはじまった観察会もお昼を挟み午後3時まで約4時間半を要し、観察した植物の名前の数は全部で60種近くにも達しました。

その間には生駒ケーブルの軌道が間近に見える観察ポイントにも案内され、生駒を熟知されている田代先生の造詣の深さに一同感嘆しきりでした。



【床下でアリ地獄探し】



【生駒ケーブルの軌道】

紙面の関係で到底全部は書けませんが、観察会で学んだことの一部をここに列記いたします。

- ・アベリアは外来種なので花粉を運ぶ専門の虫が日本にいない。体が花筒に入らないクマバチは花の蜜のところを外から咬み切り盗蜜(とうみつ)する。
- ・ジョロウグモはきれい好き? 巣にゴミ用の部屋があり、他には寝室、食堂も・・・
- ・ヤブマメは地上の花とは別に地中に閉鎖花を咲かせ自家受粉により地中に種を作る。
- ・シュウカイドウの花



【ヤブマメの説明】

- には蜜がなく、花粉を持たない雌花にも虫が寄ってくるよう雄花に外観を似せている。
- ・ソヨゴの葉の構造は等圧葉からなり、ライターであぶると破裂しパチと音がする。⇔異圧葉
- ・セイタカアワダチソウの葉のつき方。5回まわって13番目の位置に同じ位相の葉っぱが来る。(フィボナッチ数列の話)
- ・ウバメガシの木は硬いので水に沈むことをビンに入れた水を用意し実験。一同感動。

他にもたくさんの植物の不思議や魅力をご披露いただきました。

次回来年3月の自然観察会も田代先生にお願いする予定ですので、次回は、ぜひ、皆さんご自身の目と耳で、目からウロコの先生のお話をご堪能ください。